

## 第 10 回 日英共同研究ワークショップ 議事要旨

I 日時：平成 20 年 10 月 5 日～10 月 7 日

II 場所：Bovey Castle, North Bovey, Dartmoor National Park, Devon

## III 出席者

英国側：チャールズ タイラー（エクセター大学）、  
トム ハッチンソン（プリマス海洋研究所）、カレン キッド（ニュー  
ブランウイク大学）他 20 名

英国環境・食糧・農村地域省：マイケル ロバーツ 他 1 名

日本側：井口泰泉（自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター）

田中宏明（京都大学）、太田康彦（鳥取大学）

鎌迫典久（国立環境研究所）、他 4 名

環境省：木村博承（環境省環境保健部環境安全課長）他 1 名

事務局：戸笈修（いであ（株））他 3 名

オブザーバー：川嶋之雄（日本エヌ・ユー・エス（株））他 1 名 ※敬称略

## IV 議事要旨

1. 本事業の背景と取組みの趣旨について、日本側（環境省）、英国側（DEFRA）より説明がなされた。
2. スーパーバイザー（日本側：井口泰泉、英国側：チャールズ タイラー）より、これまでの研究成果および今年度の取組み概要について説明がなされた。
3. 各コアプロジェクトについて、研究代表者より、研究成果および今後の研究計画について報告がなされ、質疑応答が行われた。
4. 招待講演者による講演と、質疑応答が行われた。  
英国側：ライズ グッドヘッド（エクセター大学）「Initial investigations into the ecotoxicology of nanoparticles in the aquatic environment」  
カレン キッド（ニューブランウイク大学）「Ecosystem level impacts of ethinyloestradiol-Lake 260, Canada」  
マイケル ロバーツ（英国環境・食糧・農村地域省）「Putting science into policy」  
日本側：鎌迫典久（国立環境研究所）「Testing methods for invertebrate's endocrine disrupting chemicals using cladoceran crustaceans, *Daphnia magna*」
5. 日英共同研究の今後の展開について、これまでの成果に立脚し、日英両国の協力の下、化学物質の健康及び生態影響に留意しつつ、OECD の試験

法開発等、さらに国際的な貢献を目指し、共同研究を推進していくことで合意した。